

三鷹教育・子育て研究所「三鷹のこれからの教育を考える研究会」

第12回 次 第

令和3年8月20日（金）

15時～16時30分（予定）

- 1 三鷹教育・子育て研究所所長 三鷹市教育委員会教育長挨拶
- 2 意見交換 最終報告（案）について
- 3 事務連絡

【配布資料】

- 1 最終報告（案）
- 2 最終報告（案）【素案からの修正箇所見え消し版】
- 3 最終報告の概要（案）
- 4 今後の予定について

三鷹教育・子育て研究所「三鷹のこれからの教育を考える研究会」

(第12回会議録要旨)

日 時 令和3年8月20日(金) 午後3時～4時30分

会 場 オンライン開催(三鷹ネットワーク大学)

出席者 後藤 彰、阿原 あけみ、緒方 一郎、柴田 彩千子、宮城 洋之、
オンライン出席-佐藤 量子、相馬 誠一、常盤 豊、林 寛平、木幡 敬史、
宮崎 望

事務局 三鷹市教育委員会事務局、三鷹ネットワーク大学

〈議事要旨〉

(注) この会議録は抄録であり、すべての発言が記載されているものではありません。

1 三鷹教育・子育て研究所所長 三鷹市教育委員会教育長挨拶

・・・・・・・・・・貝ノ瀬教育長

いよいよ研究会も最後の回となった。2年間で12回、でもほとんどがリモートを併用ということで、皆様方と一緒にフェイストゥフェイスでお話し合いができず、そういう意味では残念であるが、皆様方のご意見は、大変貴重なものがたくさんあり、それをまとめさせていただいた。これは、中教審の報告に匹敵するような内容ではないかと思う。本当に皆様方のご協力に感謝し、お礼を申し上げる。

皆様のご意見をほとんど入れ込み構造化しているが、本日は不足する点、またご感想などもいただきたい。今後この報告書を世間にお披露目した上、またパブリックコメントで市民の皆さんから意見をもらい、そして次期教育ビジョンとして具体化するというような計画を立てている。今日いただいたご意見は、これからの運営の中で、生かしていくようにしたい。

2 事務局から配布資料の確認

事務局から配付資料5点の確認。

3 最終報告(案)について

○後藤座長: それでは、これより議事に入る。初めに事務局から資料の説明をお願いする。

○事務局: 今回お示した最終報告案について説明をさせていただく。資料編の部分については、現在調整中の箇所などもあり、体裁も少し整えていく予定。若干レイアウトが変わることだけご承知おきいただきたい。

資料の2、見え消し版の方を元に、今回修正した箇所について説明をする。

まず、目次だが、前回、常盤研究員からいただいた意見を踏まえ、より細かいレベル、アイウのレベルまで記載をさせていただいた。

2 ページ。宮城研究員からご指摘いただいた新学習指導要領の「新」を取り、学習指導要領という形に修正した。

3 ページ。これまでの取組等を 2030 年代の三鷹ということで、前回の皆様のご意見を踏まえ、全体的に肯定的にこれまでの取組の記述も追記している。それから 3 ページの中段、赤いところ、小・中一貫カリキュラムの作成活用という部分を追記した。

5 ページ。宮崎研究員からご意見いただき、脚注の方も修正させていただき、「三鷹市子ども家庭支援ネットワークを中心とする」を本文に追記し、また機関の連携について具体的に三鷹の話を脚注に書いた。

7 ページ。三鷹の子どもたちに育むべき資質・能力の部分で、自らの幸せな人生とより良い社会の創造に向かって主体的にその人間力と社会力を発揮する子どもたちを育成するという目標を、この研究会の中で導き出した背景について、記述がなかったので追記した。

9 ページ。納得解という言葉で前回書いてあったが、宮城研究員からご意見いただき、目的に応じた納得解を導くを、合意形成を図る、という言葉に置き換えた。

11 ページ。座長の方からご意見いただいた表現の修正をした。あと指導要領の様式等についてのところは評価のところに移動した。

15 ページ。新たな学びにおけるベストミックスの部分だが、常盤研究員からご意見をいただき、デジタルに関する部分と、これから教育に関する部分ということで桁の大きさの観点もあり、順序を入れ替えて記載を修正した。

17 ページ。評価とフィードバックのところ、先ほどのことをこちらに入れたということと、林研究員からご意見をいただき、教員自身が自らの指導の改善にどのように活用するかといった部分について追記した。また、インクルーシブ教育の理念ということで、具体的に脚注の方にもインクルーシブの話、緒方研究員からご意見いただいた点について追記した。

18 ページ。相馬研究員からいただいたご意見で、不登校や長期欠席、内部障がい、ヤングケアラー、そして福祉との連携の順で整理をした。また、一番下のところだが、不登校や病気などによる長期欠席傾向にある子どもたちの課題、喫緊の課題について、あらゆる方法での支援ということを追記した。

19 ページ。福祉に関する部分ということも含め、子どもの貧困等も含めたところを様々な形で宮崎研究員からいただき、追記した。また、佐藤研究員からいただいた、現在も取り組まれているという指摘も踏まえて脚注に追記するとともに、更に一層取り組むという文章に修正した。

21 ページ。常盤研究員のご意見を踏まえて、少し下のところにあるが、直面する教育課題の解決や教員の指導力の向上を図るために学園・学校が行われている研究の成果を保護者地域に広く発信していくこと、ということで、校内研究、学園研究をもっとよりよく広め

ていく発信しようということを書き込んだ。さらに林研究員からご意見いただいた、専門的な知見のところの前に、教員の教育の専門家としての知見を尊重するとともに、という言葉を入れた。

23 ページ。就学前教育になるが、三鷹市の現状ということで、乳幼児期保育教育共通カリキュラム、それからスタートカリキュラム、小・中一貫カリキュラムということでの三鷹の取組について、宮崎研究員のご意見を踏まえて追記した。

25 ページ。下の方になるが、宮城研究員からコミュニティ・スクールとスクール・コミュニティは連関するという意見を踏まえつつ、スクール・コミュニティの創造の全体像を記載しているこの部分に、コミュニティ・スクール委員会の話が全く出ていなかったということで、ここに追記した。それから、市民自治という言葉を使っていたが、三鷹の場合この部分、参加と協働というところに取り組んでいるということで、その言葉に置き換えている。

26 ページ。コミュニティ・スクールの活発な意見交換を通してということで、このところ、3の自主的、自律的な運営に記載していた関連の記載をこちらに持ってきた。

30 ページ。上の方になるが、学校3部制を含め、地域の教育コモンズとしての学校への移行はスクール・コミュニティをさらに広げるものであると同時に、学校という場に地域の人財や資源が集うことにより、それらを活用した学校教育の充実や、放課後における体験の充実など、子どもたちの学びの充実にも還元されるものであるということで、これはスクール・コミュニティが学校教育にも還元されるという宮城研究員のご意見を踏まえて追記した。

31 ページ。第3部の部分について、保護者世代や子育てを終えた世代、高齢者、障がい者までということで、この部分はリカレント教育を含む社会教育、生涯学習ということで、前回柴田研究員からいただいた部分について、特に保護者世代が、この第3部での学びや活動を通して、スクール・コミュニティや他のコミュニティで活躍していくことも期待されるということを追記した。

33 ページ。建替えや、大規模改修という言葉を使っていたが、軽微なものも含めてということで、佐藤研究員のご意見を踏まえ、建替え、改修又は改装というように言葉を修正した。

37 ページ。安全面の確保に懸念が想定されるといったところの表現について林研究員からご意見をいただいたが、十分な配慮と対策を講じる必要があるという言葉に直した。

同じく 37 ページの一番下の方、義務教育学校制度や教育課程特例校制度に加え、授業時数特例校制度が新たに設けられたということを追記をした。

以上、「てにをは」含めて、文章の中での繋がりの再構成を少しさせていただいたが、内容としては、今申し上げたところが修正箇所になる。

○後藤座長：最終報告書については、前回、いろいろご意見を出させていただいた。今回は、そのような内容をこの中に盛り込んでいただき、まとめていただいているかと思う。

本日このような集まりが最後になるが、前回の修正点を踏まえた上で、この最終報告案、

それからお手元に最終報告の概要の案があるが、こちら中身をご確認いただき、なおかつ本提言の実現に向けての期待や感想などを、ぜひお1人ずつご発言を頂戴したい。

特に感想については僭越であるが、私が8月26日の日に皆様方を代表して、この最終報告を市長の方に提出する対応があるので、そのときにぜひ研究員の皆様方から、このような感想等もあったということも、私の方からご紹介させていただければと思っている。

なお、最終報告案の40ページに研究員一覧ということでお名前と、勤務先、所属職等がある。まずご自分のところを確認していただき、そして修正等あれば事務局へご連絡いただきたい。

本日は、研究員一覧の一番下から、順次ご発言をいただく形で進めさせていただく。宮崎研究員、ご発言をお願いします。

○宮崎研究員：昨年7月から2年度にまたがって会議を開催運営していただき、今まで資料および会議録の調整等にご尽力をいただいた事務局の皆様お疲れ様でした。

私個人としては、とりとめもなく意見を出させていただいたが、うまく反映していただき、事務局の皆様に感謝する。最終報告案を目にし、非常によくまとまっていると感心している。この研究会に参加させていただいて私の自己肯定感も少し上がった。お声がけをいただいた貝ノ瀬教育長に改めて感謝を申し上げる。

私は現在まさに学び直し、リカレント教育の真っ最中で、諸先生方のような専門的な見地がないので、子ども政策部と教育部での行政経験と、現在の住民自治のコミュニティ行政の現場責任者という立場から、特に学校教育と、子ども家庭福祉の連携の重要性について意見を述べさせていただいた。

ウェルビーイングとコモンズという二つの言葉をキーワードに、教育の個別最適化とスクール・コミュニティという二つの大きな柱を設定して、学校教育の範疇を超えた生涯学習、子ども家庭福祉、まちづくりも含めた個人と社会全体のウェルビーイングの実現に向かってあるべき総合的な教育政策についての提案をすることができたのではないかと考えている。

35ページの終わりにあるように、この報告書には、具体化していくためには、関係する部署以外の機関はもちろん、国や東京都を動かしていく必要があるような提言も含まれている。また上位計画との整合性ももちろん図っていくということが大事であるが、特にスクール・コミュニティについては、令和元年6月に出された生涯学習審議会の提言との整合性を踏まえていくことが重要と考えている。

最後に学校における働き方を改革しつつ、知・徳・体を一体的に育む日本型学校教育を維持していくためには、放課後子供教室や部活動等を含む地域学校協働活動を、例えばNPO等に包括的に委託できるような大胆な改革、ムーブメントを起こしていかないと、なかなか変わっていかないと考えている。

また、さらなる議論ができなかった部分においては、例えばウェルビーイングの実現のために子ども家庭福祉と学校の教育を更に連携させていくことが重要と考えているが、その

ために、例えば教育センターのあり方や組織、そういったものについて、今後さらに、こども庁の創設の議論に繋がるような改革が必要になってくるかと思っているので、今後も三鷹教育・子育て研究所において、継続的な議論が展開されることを期待している。

○後藤座長：それでは続いて宮城研究員よろしくお願いします。

○宮城研究員：まず、このような形で研究報告書をおまとめいただいた事務局の皆様方に頭が下がる思いである。

第1回目のときだったか、貝ノ瀬教育長からとにかく夢を語ってくれということをおっしゃっていたことを今でも覚えている。本当にこんなことできるのかと思うような夢物語を含めて、毎回いろんな発言をさせていただいた。

私は学校現場の人間なので、まず、学校教育の現場と、教員の一人としての立場の軸足がずれないようにというつもりで毎回意見を述べさせていただいた。その中でも、人間力、社会力という、本当にこれまでずっと三鷹の学校教育が育成を目指してきたこの二つの力が、ここにおいて再定義されるということ、これは三鷹の学校教育にとって非常に大きな出来事だと私は捉えている。

私が三鷹に異動してきたのは平成22年であるが、その時からずっと関わってきた三鷹の学校教育が、本当に新しい局面を迎えていくのだなという思いがする。

一言で言うと、この報告書の中には三鷹の教育の未来が詰まっている。三鷹の教育の未来ということは、日本の教育の未来がここに詰まっているということでもある。そういった報告書が出来上がりつつあることに感謝申し上げたい。

これまでは実現できるかということを度外視して、思いつきのような意見も言わせていただいた。それがこのように体系づけられて構成された一つのまとまった形になったので、あとは、どのように具体化し、取り組んでいくかである。この中には学校現場の人間が担うべきこともたくさん示されていると思う。報告書ができて終わりではない。ここから先、どのように展開していくのか、正直大変ワクワクしている。

○後藤座長：続いて林研究員お願いします。

○林研究員：本当に素晴らしい会に参加させていただき、ありがたかったと思っている。全国から注目されている三鷹市であるが、今までの成果を全く否定することなく、コミュニティ・スクールの成果であるとか、現場の先生方がご尽力いただけてきたことや、教育委員会の事務局がこれまで積み上げてきたものを土台にし、さらに明るい未来に向けて、私達の幸せに向けて、すごく素直にこれもやりたい、あれもやりたいということが書き込めた報告書になったと思い、すごくありがたいと思っている。

いろんな国の審議会も、ここが悪いとか、これをやらないといけない、というような書き方をされることもあるが、今回の報告書の特徴は、やはり、みんなのウェルビーイングを真剣に真正面からとらえるよ、というメッセージが最初に来ているのがとてもいいことだと思う。これから僕の仕事はこれをいろんな人に紹介して、全国で、模範モデルにしてもらえるように活動できたらと思う。全国に同じような動きが広がっていくことをすごく期待し

ている。

○後藤座長：続いて、常盤研究員お願いします。

○常盤研究員：三鷹市の教育委員会事務局の皆様と、ネットワーク大学の皆様の本当にここまでの報告書をまとめていただいたご尽力に対し、非常に敬意を表し、感謝を申し上げたい。その上で、この報告書について、先ほど貝ノ瀬教育長から中教審の報告に匹敵するのではないかなという言葉だったかと思うが、私は凌駕しているのではないかなというふうに思っている。なぜそう思うのかと申すと、多分、一つはやはりどうしても国の議論というのは、全国どこにでも通用するという意味で抽象的な色彩が強くなるが、この議論は、やはり三鷹市における実践というものを基盤にしている、しかも10年余りの素晴らしい実績を基盤としながら具体的なバックグラウンドを持った提案になっているということが素晴らしい、ということが第1と、実績とか、現実という話だけではなく、理念とか理想とか未来とか、そういうものをしっかりと目指している。この報告書の文言を借りれば、現実と理想とのベストミックスを追及しているというところで、とても素晴らしいと思った。ぜひこれを具体的にこれから実現していただきたい。

その時に、やはり、三鷹市の教育をこれまで作り上げてきたのは、貝ノ瀬教育長のリーダーシップのもとで、教育委員会事務局が非常に努力をして重ねてこられたというのが非常に大きな要因だと思うが、それとともに、そのことをやはりしっかりと受け止めて実装していただいた各学校の教職員の方々、あるいは地域の方々のご理解ご協力というものがあって初めて現在になっていると思う。それをもう一段高めていくということなので、またもう一段高いご理解とご協力ということをお願いしていくということになろうかと思う。その点を教育委員会が主導していただいて、ぜひそういう点を十分確保していただきながら進めていただければとても素晴らしい。三鷹の教育がさらに一段素晴らしくなることに期待を申し上げる。

○後藤座長：続いて相馬研究員、よろしくお願いします。

○相馬研究員：事務局、教育委員会等、大変な思いで作上げたのではないと思う。本当に頭が下がる思いでいる。重複している意見についてはカットさせていただく。

一つだけこうしたらいかがかと思っている点は、例えば資料編は、資料編の目次という形で、ずっと書かれて展開されているが、その資料編の目次はむしろ前のところに持って行って併せて見てもらう。いわゆる全体の目次の中に資料編の目次も入ってもいいのではないかなと思う。つまり、資料そのものがこの意見を土台にして様々な角度から討議した内容ということが出てくるすごく大事なものだと思う。できればこの資料によればいいという、そのページ数まで欄外のところに書いていくというような形であれば、さらにその資料が活きるかなと思う。

これからの問題ということについては、やはりこれを踏まえて、ひとつひとつ関わってくると思うし、どこからどこまでいつの時点で作っていくのかという、具体化、現実化していくということを、また別な角度からいろんな形で考えていただければありがたい。

そういう意味では皆様方がおっしゃった通り、これからの一つの指針になるような内容がたくさん含まれていると思う。ぜひこれを生かしていくということを最大限いろんな角度から考えていただければありがたいと思っている。

○後藤座長：続いて柴田研究員、よろしくお願いします。

○柴田研究員：まずこのような形の最終報告を作成していただき、多岐にわたる議論をおまとめいただくということは本当に大変な作業であったと思い、ご尽力に対し御礼を申し上げます。またこの研究会にお声掛けいただいた貝ノ瀬先生に感謝する。皆様方の発言から多くを学ばせていただいた。

三鷹市は参加と協働ということをキャッチフレーズとして、教育、それから地域づくりというところに取り組んでいる自治体ということで、10 年ほど前にこのネットワーク大学で貝ノ瀬先生が座長をしていらっしゃったコミュニティ・スクールの全国調査に加えていただき、何校か学校を回らせていただいたが、その時にご活躍されていた保護者の方たちが、今も継続をされて我が子が卒業した後も大きな力を地域に発揮されているということに、この研究に関わらせていただいて感動した。

三鷹市の学園制という体制と、それから住民協議会がそこに沿う形であって、そのような地域構造の中で現行のようなスクール・コミュニティを実践していくということは、全国モデルとして、大きなインパクトを提供していくような取り組みになるのではないかなと思う。

また、教師のウェルビーイングについて、これほど熱心に議論をすることは初めてだったけど、三鷹市のような自治体で仕事をしたいという教員がこれから増えていくのではないかなと思う。

8 月の頭に、三鷹市の 3 年次研修の講師をさせていただき、最後の話し合いで教員のウェルビーイングをどうやったら実現できるかと現場の先生方に話し合っていた。多くの意見が出てきて、中学校の先生方からは特に部活動の指導と教育課程の両立というところで、なかなかライフワークバランスがうまくとれないというような声を伺っていたので、部活動の在り方を考えるところから教師のウェルビーイングを考えていくことは、教師のライフワークバランスの改善に必要な糸口になるのではないかなと思う。

また、私どもの研究室と三鷹で活躍されているみたか S C サポートネットと共同で、おおさわ学園の水害をテーマとした防災教育のデジタルコンテンツ作りをしており、今、作業の佳境となる段階であるが、そういったものをつくる上でも、コミュニティセンターや、保護者の方々、学校もとても協力的で、本当に参加と協働の地域だということを実感しているところである。これからも益々の発展をお祈り申し上げます。

○後藤座長：続いて佐藤研究員をお願いします。

○佐藤研究員：今回の研究会を通してたくさんの新しい視点をいただいた。とても勉強になり感謝する。報告書は読み応えのあるものになっていてまとめたいただいた事務局の皆様方の大変なご尽力だと思う。

それから、松永先生、一人ひとりの発言について確認しながらご報告いただき、一人ひとりを大切にするという三鷹の教育理念を私もここで体験させていただいた。

この研究会を通して印象に残っているのは林先生が言われていた「快適である」ということである。一人ひとりの快適さや保障というのが安心感や安全の保障に繋がるし、福祉の世界では快適さを優先することが個別支援のゴールになりうるが、学校で我慢とか、みんなと同じようにするということがスタンダードになっているということが今でも根強いということに改めて気づいた。

報告書の中で、子どもだけでなく先生方の快適さやウェルビーイングについて書かれていることが、他の市町村では、先生方の研修を充実させることはたくさん言われていると思うが、大人の快適さを言及している点にはない視点であると思った。

もう一つ、とても印象に残っているのが、前回、阿原研究員が言われていた障がいのある子もない子という表記のところに違和感をもったという発言があったと思うが、私の中でとても印象に残っている。まず、「障がい」という表記については、いろんな議論はあったが、いまだに福祉の世界でも、表記の仕方については一貫していないような状況で、でもそこに違和感を感じられるということは阿原研究員が立派な方であるということもあると思うが、お子さんたちも「障がいがある・ない」という言い方をしないのではないかとおっしゃっていて、三鷹で教育を受けたらそんなふうに考えることが当たり前になるのだと思って、これこそ人間力とか社会力ということではないかと思った。

三鷹のスタンダードが全国ではまだまだだと思う。ぜひ今までの取り組みも含めて、学校関係者だけではなく、全国で町づくりに関わっている一般の方々や、福祉の関係者にもアクセスしやすい方法で公開していただけたらとてもありがたいと思う。本当にたくさん勉強になって感謝する。

○後藤座長：では続いて、木幡研究員お願いします。

○木幡研究員：西日本はとんでもないことになっていて、これまで経験したことない甲子園がたびたび延期、経験したことがないような災害もあり、雨もありというので、気候変動はもう既にしていて、環境が大きく変化している中で、感染症のリスクも昨年よりもひどくなり、全然想定した事がより悪くなっていくというのが当たり前になっていく、経験したことないと毎年続けるようなことになっているのは事実であって、これからを考えるにあたり、市長にこう提言していくということで、おそらく政策の優先順位ということはこれから考えられていくと思うが、やはり災害とか感染症から子どもたちの命を守るというのがこの議論の中でも最初のウェイトを大きく占めていたことがあると思う。まずはこの提言によってこういった子どもたちの安全を守るということを施設設備の面からしっかり作っていくことも重要だということは、これは喫緊の課題であるというようところで私は認識しているので、三鷹の子どもたち、三鷹だけではないが、子どもたちがちゃんと安全な環境の設備の中で過ごしていけることというのは非常に大事だということをこの 1 ヶ月ぐらいの気候の変わり方や感染症の拡大を見ていて思った。

1年半に渡る中で何が議論されたかと言ったら、まずは三つあると思っていて、一番このインフラなどの基盤の部分、この社会基盤としての学校という設備とか構造みたいな部分というのをしっかりまず作っていくと。この時代に合わせて感染だったり防災だったりというのを合わせて社会基盤として強化したものをつくっていくということ、と同時に一番上にあるものは教育的な価値をどうやって実現していくか、目指すべき価値というもの何かというこの上にある部分と、その一番下にある設備とか環境みたいなところをやっていく、その真ん中による教育のプログラムとか活動という価値と基盤をうまく組み合わせで繋げていくようなもので3層構造だというふうに思って考えていた。

目指すべきこれからの価値ということについては研究員の皆さんの非常に多くの知見、素晴らしい考え方から、本当にこれから目指すべきものがどこにあるのかということが概要版からも見てとれると思う。それを実現するための具体的な中身についても皆さん多くの方向性でいろんなことが議論され、3部制のこともそう、多様な意見が出てきたというふうに思う。おそらくこれから皆さんがこれを説明していくとなったときに、概要版は素晴らしいが文字が多く、これをどうやって1枚のスライドで見せていくかというところが次の課題になるかと思う。概要版をいただいた時に、1ページにまとめたかと思ったら、3ページあり、好き勝手なことをみんな言ったが、1枚でびしっとまとめるとこうなるというのがあると、今後皆さんがいろんなところで説明しやすくなるのではないかと思った。

本当に最後の最後まで事務局の皆さんにお願いばかりで申し訳ない。会議に加えさせていただいたことは本当に感謝している。今後ともよろしくお願いします。

○後藤座長：続きまして、緒方研究員お願いします。

○緒方研究員：本当に40ページの皆様方の研究員の一覧を見て、私だけが何かエイリアンのような感じがして、市議の現職時代に文教委員長をさせていただいたことがあるが、それ以外は本当にこの教育という現場からは全くの素人で、どっかの異星人がやってきたような感じがしていた。本当にリカレントで勉強させていただき感謝する。

私のスマートシティ・ネクスト情報交流会というのはまさに異種格闘技戦というのを、2012年から行っており、いろんな企業団体、障がい者福祉あるいは上場企業の方々が、普段会えないような方々を集めてそしてセミナーをする。そういうことをやっており、貝ノ瀬先生にも来ていただいたことがあるが、まさに教育の中にあってもこれだけ多くの分野の方々がいらっしやって、それぞれの角度から聞かせていただいたのは本当に貴重な機会だと思っている。

今回私が学んで、同時に新しい言葉が意義づけられて認識されたのが私の感じたものでは、今話が出た快適さ、それからウェルビーイング、コモンズ、探究学習、3部制、これらの言葉が今までなかった言葉、あるいは位置づけられてなかったようなものがしっかりと定義づけられて、これから具体化されるということで本当に楽しみにしている。

2021年度、来年の3月までは、やはりコロナ対策ということが学校現場でも休校になったり、オンラインだということもあるし、来年度2022年度はやはりウィズコロナだし、再

来年はアフターコロナになって欲しいということがあるが、いずれにしろ、ニューノーマルな時代が来る。それが教育現場ではどうなるのかということになれば、先ほど申したオンラインをはじめとする通信系、あるいはその少子化とか役員の方々の世代交代を含めて新しいコミュニティが生まれて、その上に乗った、CSからSCというような形になるのだろうと思う。

もう一つはやはり災害対策で、首都圏の直下型とか東海東南海や富士山とかいろんなことを指摘したが、災害に対応する学校、あるいは教育現場ということも今回認識させていただいた。

先日のところで、指摘をさせていただいた支援教育インクルーシブの今回4ページ、5ページ、18ページと反映していただいて本当に嬉しいことである。前回のところで私の補足でちょっと申し上げたいことがあるので、付け足しさせていただきたいと思うが、ほとんどこのインクルーシブ教育、1人もとり残さないというようなことは実現していただいたが、複合障がい児に対する個別対応、特に知的障がいを伴わない児童の就学支援プログラム、あるいは、重度心身障がい者に対する受け皿等に加えて、支援教室が外国人子弟の受け入れ先になっていないかの調査と適切な受け入れ先の設置をお願いしたい。

また、ご講演いただいた武蔵野東学園、資料に載っているが、教育支援センターとの研修交流等の具体的な連携もお願いしたい。最後に、障がい児や支援を要する子どもたちを抱える保護者や家族向けの相談窓口等の拡充をお願いしたいということをこの文章にということではなく、私の発言に補充させていただきたいと思う。

概要版の方の研究員一覧で、私のスマートシティのネクストが抜けているので、40ページの方にあわせていただきたい。

そんなことで本当に異星人をよく使っていただいて、皆様と一緒に過ごせた時間は本当に素晴らしい時間だったと思う。この実現に向けてまたいろんな立場から、ご一緒にさせていただきたいと思う。どうぞよろしくお願いします。

○後藤座長：それでは最後に、阿原研究員よろしくお願いします。

○阿原研究員：昨日こちらの最終報告が郵送で自宅に届き、読ませていただいたが、実際に読むと、本当に大変な作業を今までしていただいた教育委員会の皆様とネットワーク大学の皆様のご苦勞が本当に思われて、すごいことだったのだなというふうに改めて感じた。私はもう本当に長く子どもたちを育ててきた一保護者でしかないが、そのような私がこのような素晴らしい会に参加させていただいたことに本当に感謝する。たくさんのご意見を聞かせていただいたこと、すごくありがたく思っている。

現場の声として、実はつい1、2週間ぐらい前に、3月に中学校を卒業した娘の卒業アルバムが届いた。コロナの影響でおそらく1ヶ月以上例年よりも遅くなって届いたものだと思う。それをうちの兄弟たち、上の子どもたちが一緒に見る機会があり、知っている子がどのくらい大きくなったのか顔が見たいということで、ページをめくり、この子は覚えている、顔が変わってない、という話をしていたが、その中で一番下の今高校1年生の娘がこの子は

学校に来ていない、もうこの子はずっと不登校なの、と。そういう子どもがたくさん、実は不登校で来ていないという児童の数がすごく多かった。ちょうど長女が、松永さんが校長先生をしていたときの卒業生であるが、一番上と一番下で七つ違いだが、7年の間にこんなに不登校の子どもが増えてしまったのかというのが私の印象で、本当にその子どもたち、こちらにもあるが、ヤングケアラーとか、貧困家庭の子供たち、そして心にいろんなものを抱えた子どもたちがこの数年間の間に増えてしまったのだなというのを、子どもたちの会話を聞いていて思った。なので、ぜひ、そういう子どもたちのケアというものに少しやはり目を向けていただき、これからの三鷹を創るというのは、今の子どもたち、中学校を卒業してしまってもう終わりではなく、その子どもたちが必ず大人になって豊かに戻ってくると思うので、その子どもたちを育てるのがやはり三鷹だと思い、どうかそういった子どもたちのケアをこれからもしていただきたく、温かい目で見えていただき、子どもたちを救っていただきたいということを本当につい最近感じたので、この場をお借りしてお願いしたいと思う。よろしく願います。一般の保護者では聞けないようなお話をたくさん聞かせていただいたことに感謝する。

○後藤座長：最後の挨拶をまとめて、ここで私も感想なり意見を申し、事務局に渡したい。

まずは、私の拙い進行のもとで、研究員の皆様方には私に合わせていただいた形で進行を進めていただき感謝する。本当に研究員の皆様のおかげで、毎回の会が充実し、そして、事務局、あるいはネットワーク大学のお力の下で、このような40ページ以上にわたる最終報告案ができたと思う。本当に心から感謝申し上げる。

私は、12年前に、三鷹市教育委員会の事務局に職員でいたのだが、研究会に参加する中で、その経験を語ることは一度もなかった。つまり、その時のことを語ることをまったく必要ないということであった。

私が10年前に来たときにはコミュニティ・スクールを基盤とした小・中一貫教育を全市展開するということで、3年間で全市展開され、それで私は終わったと思って都教委へ異動したが、今これに増して何も終わってない、それがスタート地点でまた新しい企画でスタートしていく、これが三鷹の力かということを改めて痛感しているところである。これから三鷹の教育のますますの発展をご祈念申し上げるとともに、また私ども研究員の皆様方からたくさんの意見を頂戴しているが、ぜひ今後も何かのときに研究員の皆様に三鷹市教育委員会からお声がかかるかもしれないので、そのときまた何かしらお言葉を頂戴できれば、お願いできればと思って、私の挨拶に代えさせていただく。

本当に2年間、12回、拙い司会のもとでご参加、またご参画いただき、感謝する。

それでは、最終報告案および概要案については、この後おそらく微調整、あと木幡研究員からはA4サイズ1枚と言われており、そういった諸々のことについて、最終的な調整は私座長に一任をさせていただければということで終わりにしたいと思う。そのように進めさせていただく。よろしいか。

(研究員全員承認)

これで私の進行を終わって、事務局の方にお返しする。

4 事務局からの連絡

○事務局：改めて研究員の皆様におかれては本当に昨年の7月から本研究会にご参画いただき、そして熱心にご議論いただいたことを心から感謝申し上げます。

私の方から、今後の予定について1点だけご連絡をさせていただく。前回は申し上げたが、研究会のこういう議論の場としては、今回は最終回だが、第13回目として、11月6日、三鷹市公会堂ほか市民センターの周辺で、全国コミュニティ・スクール研究大会 in 三鷹、そして文科省主催の部分として、地域とともにある学校づくり推進フォーラム2021 三鷹、そして、三鷹市の行事としては、三鷹教育フォーラム2021ということで三つ冠がある研究会を実施する。こちらの方もぜひご参加いただければと思っている。

分科会の助言者として、常盤研究員にもご登壇いただき、ご指導いただく予定である。集合とハイブリッドで行う予定であるが、最終決定したら二次案内をする。

最後に、三鷹教育・子育て研究所所長、三鷹市教育委員会貝ノ瀬教育長からお礼のご挨拶をお願いする。

○貝ノ瀬教育長：皆様には本当に感謝しており、重ねてお礼を申し上げます。

個人的なことを申し上げますと、22年ぐらい前に三鷹市立第四小学校に最初赴任をした。三鷹駅に降りたこともなく、地図を買って調べたという思い出がある。3ヶ月ぐらい鬱々していたが、鬱々とした中で、やはり子どもたちの様子、先生方の様子を見ているとどこでも同じだというように思いに至り、少し遅かったが、夏直前ぐらいからエンジンがかかって教育ボランティア制度やコミュニティ・スクールのはしりみたいなことや小・中の連携教育みたいなこと少しずつ始めたというようなところで、その頃を思い返してみると、教員になったときもあまり使命感のない教員で入り、校長としても少しいい加減なところがあったが、日々鍛えられる中で、今私はもう72歳になったが、最後のステージとして、今教育長を務めている。教育長という仕事を私は職業だと思っておらず、ミッションだと思って、今仕事をしている。

そういう意味では最後のステージとしていい仕事をしたいと思っていた。皆様のご協力を得て、このように本当に素晴らしい内容の報告書、研究会のまとめができ上がったということで、本当に私個人としても感謝申し上げます。教育長としてこういう立派な内容をいかに実現に向けていくかということが最後の仕事だと思っている。近々に教育委員会を開いて、この内容の中で何を優先的に形づくっていくか、具体化していくかということを、教育委員の皆さんに議論をしてもらい、そして一定のまとめをして市長と相談をしながら、これを実際の計画に上げていくということを考えている。そのある程度まとまった方向性について、11月6日に、フォーラムの中で発表という形をとりたいと思っている。

本当に皆さんに感謝申し上げ、皆さんのこの熱意とビジョン、いろんなこの思いを集約したものをできるだけ市民の皆さん、子どもたちの期待に応えられるような学校づくりを進めていきたいというふうにお約束したいと思う。以上である。

○事務局：皆様に心より感謝を申し上げます。以上を持って、本研究会第12回を終了させていただきます。